

今日のキーワード 来春に控えた「フランス大統領選挙」(欧州)

フランス大統領は任期5年で、現在は2012年から与党・社会党のオランド氏が務めています。次回の「フランス大統領選挙」は、来年4月23日に第一回投票、5月7日に第二回投票が予定されています。また、大統領選挙後の6月にはフランス上・下院の選挙が控えています。現職のオランド大統領の支持率が低下する中、極右政党のルペン氏が支持を伸ばしており、今後の展開が注目されます。

ポイント1

現職オランド大統領の続投は困難

野党・共和党の予備選ではフィオン氏が大勝

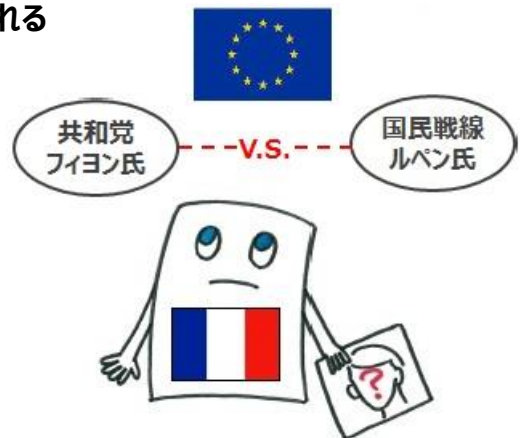
- フランスでは、来年4月、5月に大統領選挙が予定されています。与党・社会党のオランド大統領は、経済対策等の効果が見られないことなどから支持率が低迷し、直近の世論調査では4%と過去最低水準にまで落ち込んでいます。こうした中、オランド大統領の続投は困難と見られます。
- 一方、野党を見ると、11月20日と27日に前大統領サルコジ氏が属する中道右派・共和党が予備選を実施しました。第一回、第二回の投票とも、政治・社会面では保守的、経済面ではリベラルなフィオン氏（サルコジ大統領時代の首相）が、2位のジュペ氏（シラク大統領時代の首相）を大きく引き離して勝利しました。

ポイント2

トランプ次期米大統領選出で注目される国民戦線

国民投票の実施を掲げ、EU離脱が懸念される

- 前回2012年の大統領選挙以降、極右・国民戦線（FN）のルペン党首も支持を伸ばしてきています。FNは、反自由貿易協定や反移民、反イスラムなどを唱えています。米国でトランプ次期大統領が選出されたことから、同様の政策を掲げるFNは注目されています。またFNは、EU離脱やユーロ離脱・フランスフランの導入等を挙げ、国民投票の実施を掲げています。このため、ルペン氏が大統領選に勝利すると、フランスのEU・ユーロ離脱への懸念が高まりそうです。



今後の展開

与党の巻き返しは困難か、フィオン氏とルペン氏の戦いとなりそう

- 与党・社会党は、来年1月に予備選を実施する予定ですが、オランド大統領が立候補するか注目されています。ただし、足元までの政権運営を見ると、今後与党の巻き返しは難しいと見られます。このため、来年の大統領選挙は共和党・フィオン氏とFNのルペン氏による戦いとなりそうです。英国のEU離脱選択は今年の大きなキーワードの1つとなりましたが、今後欧州でこうした流れが強まるのか、「フランス大統領選挙」にも注目です。

ここもチェック!

2016年11月28日 政権交代が懸かる「イタリア国民投票」(欧州)
2016年11月 8日 「ハードブレグジット」(欧州)

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。